

2023年7月31日

avatarin 株式会社

株式会社スペースサービス

公益財団法人日本宇宙少年団

JAXA OB の講師による JAXA 種子島宇宙センター宇宙科学技術館の遠隔案内・解説を実施 ～東京から種子島へアバターイン～



ANAホールディングス発のスタートアップであるavatarin株式会社（代表取締役CEO：深堀 昂、以下「avatarin(株)」）と株式会社スペースサービス（代表取締役社長：吉田 恵子、以下「スペースサービス」）は公益財団法人日本宇宙少年団（理事長：山崎 直子、以下「YAC」）の協力のもと、宇宙の専門的な知識を持ち合わせたJAXA OBであるYAC講師が、鹿児島県種子島のJAXA種子島宇宙センター宇宙科学技術館（以下「宇宙科学技術館」）に設置したアバターロボット「newme（ニューミー）」を活用して、東京にいなから種子島の宇宙科学技術館を訪れたYAC団員の子ども達に向けて館内を周りながら遠隔で案内・解説を実施します。

◆実施概要

日 時： 2023年8月2日(水) 10:30～11:00、13:00～13:30
アバター設置場所： JAXA種子島宇宙センター宇宙科学技術館
（鹿児島県熊毛郡南種子町大字荃永字麻津）
体 験 者： YAC種子島スペースキャンプ2023夏に参加する
小学4年生から高校生までの38名
アバター操作場所： YAC東京事務所
（東京都千代田区神田錦町3-21）
案 内 者： 宇宙の専門的な知識を持ち合わせたJAXA OBであるYAC講師
概 要： 宇宙科学技術館に設置したアバターロボット「newme」に、東京都千代田区
のYAC事務所からパソコンを介してアクセスし、YAC種子島スペース
キャンプ2023夏に参加する子どもたちに向けて、YAC講師がJAXA種子島宇
宙センター宇宙科学技術館を案内しながら宇宙について解説を行う。

◆本取り組みの背景

本取り組みは、avatarin(株)とJAXAによる新たな発想の宇宙関連事業の創出を目指す「JAXA宇宙イノベーションパートナーシップ（以下、J-SPARC）」^{※1}の枠組みのもと2021年7月より開始している「アバター技術を利用した宇宙関連事業」の共創活動の成果の一環として実施するものです。

「アバター技術を利用した宇宙関連事業」のうちの一つとして取り組んでいる「宇宙関連遠隔体験事業」に関するもので、avatarin(株)が独自開発したアバター「newme」を用いて、スペースサービス協力のもと、JAXA関連施設を遠隔見学することで、宇宙を身近に感じ宇宙開発を学習できる体験を提供することを目指しています。

なお、avatarin(株)とJAXAの取り組みは大分県の協力も得て、日本オープンイノベーション大賞内閣総理大臣賞を受賞^{※2}しました。

◆各社の役割

avatarin(株)： newmeを活用したJAXA関連施設の遠隔見学に関する事業計画立案。
スペースサービス： 種子島宇宙センター宇宙科学技術館の維持・管理・運営、およびnewmeを用いた施設案内。
Y A C： JAXA OB講師によるJAXA関連施設の遠隔案内・解説。

avatarin(株)、スペースサービス、YACはアバター技術がもたらす新たな価値の創出及び宇宙と地上での利用の拡大を進めていきます。今後さらに多くの方の参画も期待しています。

※1 J-SPARC：<http://aerospacebiz.jaxa.jp/solution/j-sparc/>

「JAXA宇宙イノベーションパートナーシップ（J-SPARC）」とは、宇宙ビジネスを目指す民間事業者等とJAXAとの対話から始まり、事業化に向けた双方のコミットメントを得て、共同で事業コンセプト検討や出口志向の技術開発・実証等を行い、新しい事業を創出するプログラムです。2018年5月から始動し、現在、約20プロジェクトを進めています。

※2 日本オープンイノベーション大賞：<https://about.avatarin.com/info-news/news-release/5135/>

以 上

◆avatarin(株)について

avatarin（アバターイン）株式会社は「移動の民主化～すべての人が持続的にいつでもどこでも自由に移動できるように～」を目指したANAホールディングス発のスタートアップです。これまでの移動の概念を見直し、肉体的移動ではなく、あらゆるロボットやモビリティに人の意識、技能、存在感を伝送する新たな移動サービスの普及に取り組んでいます。また、独自開発の通信プロトコルや遠隔AIモジュールなどを通じて、遠隔操作の高速化や遠隔操作からのAI化に挑戦しています。

<https://about.avatarin.com/>

◆avatarin(株)の目指す未来、今後の展開

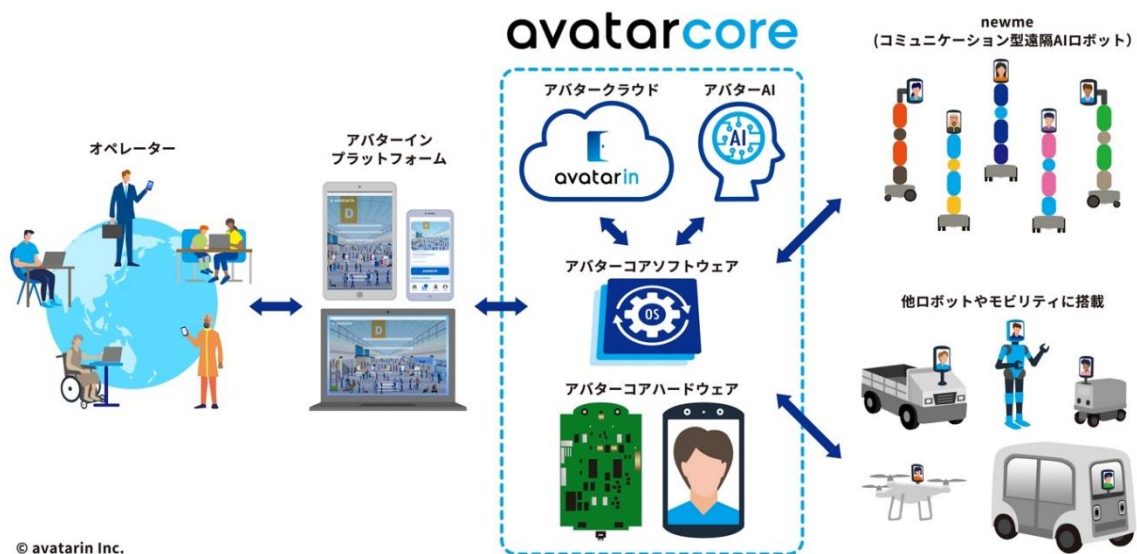
アバター技術を活用した社会課題解決のビジョンを実現するための鍵となる技術として、「avatar core®（アバターコア）」の独自開発に取り組んでいます。ハードウェアに加え、ソフトウェア、クラウド及びAIを組み合わせることで、超低遅延で大容量の映像や音声、制御データなどをインターネット経由で高速伝送することを可能にするシステムモジュールとして、ロボットやモビリティに搭載し、遠隔制御やAI学習での活用を目指しています。

avatar core®の研究・開発において、現在は2つのプロダクト「newme（ニューミー）」及び「アバターコアハードウェアとソフトウェア」を軸に開発を進めています。

newmeは遠隔で自由に動きまわりながらコミュニケーションをとることができる遠隔AIロボットであり、2021年より水族館や美術館などで運用を始めています。今後は、国内空港をはじめ、海外空港やホテル、病院、役所、駅、コンビニなどサービス案内業務、誘導などが必要な現場を中心として順次展開をしていきます。

アバターコアハードウェアとソフトウェアについては、今後登場するさまざまなロボットや自動運転車、ドローンなどのモビリティ等に搭載していきます。遠隔からの超低遅延リアルタイム制御を実現するとともに、AI学習によって人の能力を拡張することを目指します。

世界ではロボティクスやAIによる人の作業代替を加速させる技術が注目されていますが、avatarin(株)は、人の享受する体験価値の向上に繋がる身体能力拡張のためのロボティクスやAI技術を追求しています。人が必要とする場所へ、年齢を問わず、気軽に移動することを実現するほか、これまでその人ができなかったことをアバターで能力拡張し、できるようにしていく世界を創っていきます。あらゆる人がアバターという持続可能で気軽に誰でも使える乗り物で未知なる場所に瞬間移動することができたり、新たな人と出会うことができたり、毎日がワクワクするようなライフスタイルを日本から世界に提案していくことを目指します。



© avatarin Inc.

avatar core®概念図